

早稲田大学における OSS 活用事例

神馬 豊彦

株式会社早稲田総研インターナショナル

[アブストラクト]

早稲田大学では OSS による全学の事務システムの開発を進め、2003 年より本稼動している。運用当初は人的リソースや開発期間の不足により、一部サービスの停止といった事態を招いたが、開発体制・システムの抜本的見直しにより、現在では安定的に運用している。

その利用範囲は事務システムにとどまらず、認証管理、文書共有、LMS にいたるまで、積極的に取り入れられている。

早稲田大学のシステムの現状、OSS の選定理由、OSS を利用してみてわかったことなどについて紹介する。

[キーワード]

OSS、LAPP、事務システム、選定理由

[講演要旨]

早稲田大学では、2003 年より業務システムの OS、アプリケーション、データベースを含めてすべてをオープンソースで提供している。オープンソースの活用が叫ばれるようになってから 10 年ほど経つが、開発当初は、情報も、経験を持ったエンジニアもまだまだ少なかった。しかしながら、シンプルな開発言語やデータベースは開発効率がよく、多少の不具合はあったものの、システムの開発は効率的に進めることができた。

しかしながら、学内のすべての業務システムの開発に加え、学生や教員が Web から手続きできるワンストップサービスを目的とした仕組みは、大規模な Web システムの開発経験の不足や体制の問題から、稼働当初は大量アクセスによるシステム停止という事態を招いてしまった。

このことを教訓に開発体制、関連会社・協力会社と協力した開発標準の策定、標準パターンを整備することにより、当初の開発範囲であった業務システムに加え、学生や教職員を直接的に支援するための仕組みである、教育支援のための LMS、研究支援のための仕組みに至るまで、オープンソースソフトウェアを活用して開発している。

一般にはオープンソースソフトウェアを利用した業務システムの構築事例はまだまだ少ない。しかしながら、利用にあたって多少は気をつけなければならない点もあるものの、それは他のどのようなソフトウェアでも同じであり、オープンソースソフトウェアといえども開発・運用体制の整備、開発手順の標準化等を進めることにより、十分に業務システムの開発に耐えることができると考えている。